

日刊大牟田 2016年10月19日(水)  
3面

## 高専開発の技術注目集める

### 来年度実用化を目指す

有明高専の ICLab(石川・清水研究室)の石川洋平准教授らの開発チームがIoTのセンサーボード「ホワイトタイガー」を開発。横浜市で来月十六日か



開発したチーム

ら開かれるイベントで紹介する。石川准教授は「例えば開発したボードを使い、室内の温度を全自動で調整することができると将来的には生活の向上が見込めます。来年度から実用化を目指します」と話した。

「IoT」はコンピューターなど情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々なモノに通信機能を備えつけ、インターネットを利用し自動認識、制御、遠隔計測などを行う技術を表している。

石川准教授らは九州工業大学、SCSK九州株式会社と国立研究開発法人

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトに採択され共同研究。

有明高専からは石川、ゴーチェ・ロヴィック両准教授、技術専門職員の池上勝成さん、事務補佐員の城門寿美子さん、専攻科の森下伊織さん、吉富康英さんのチームが開発にあたり、株式会社ギガファーム(本社、東京都)が協調して設計、製造、検証した。

開発したセンサーボードはIoT開発フレームワークの重要な部分を占め、IoT開発の生産性向上が見込めるといふ。名称のホワイトタイガーは大牟田で開発したものと、いふ思いを込めて城門さんが命名したという。

センサーボードは、今月、横浜市であった日本最大級の展示会に出品。中小企業や大学などの教育機関から注目を集めたという。

「大牟田をはじめ近隣の中小企業などからも注目頂き、IoT技術が大牟

田で発展できるように、地域活性化に多大な影響を与えるのでは」と石川准教授。